

..... 会 告 .....

地学クラブのお知らせ

地学クラブ講演会（11月）の予定が決まりましたのでお知らせします。講演終了後、講師を囲んで懇談の場も用意しています。多数のご来場をお待ちしています。

記

・平成20年11月20日（木）14：00～15：30  
「地形を見る目を実験で磨こう」

池田 宏（元筑波大学陸域環境研究センター助教授）

（要旨）

米国西部の平坦なコロラド台地とそれを刻むグランドキャニオンの地形はどのようにしてできたのでしょうか。岩が崩れたり、石が流れる様子を現地で見るとはなかなかできませんが、実験でなら、それが可能です。地形を見る目を実験で磨いてほしいと、ワゴン車に実験装置を積んで、日本各地へ出前実験に出かけています。その実験のいくつかを見てください。マッターホルンと富士山の傾斜が違うのはなぜ？ 富士山の傾斜が山麓ほどゆるくなるのはなぜ？ 氷期に広い川原を発達させた多摩川上流の山川が今は峡谷になっているのはなぜ？ 下流の平川の縦断勾配が急減しているのはなぜ？ …など。最後に、人工洪水によるコロラド川のビーチ再生が成功しなかったことを紹介しつつ、地理の目と歴史の目の大切さをお話します。